



# こんにちは、岡田よしひでです

2024年1月21日発行  
県議会活動報告ニュース  
NO.197

自宅 南国市浜改田 430-1  
TEL/FAX 865-2932  
携帯 090-4337-4527

岡田よしひで事務所 864-2426 南国市駅前町 2-5-11 県議会共産党控室 823-9524 高知市丸ノ内 1-2-20

## 中山間再興ビジョンとジェンダー格差について 12月定例会

県は人口減少の負の連鎖を断ち切り、地域を次の世代に引きついでいくための道しるべとして「中山間地域再興ビジョン（期間令和6年度～9年度）」を今年度策定します。12月に示された素案では、若者世代、特に若い女性の人口流出や未婚化の進展、婚姻数の減少が出生数減少の要因であると分析したうえで、市町村での若い女性の割合を高めることを目標にして人口減少対策が進められようとしています。



岡田よしひで代表質問（12月15日）

こうした施策に対して、子どもを生む、生まない、いつ何人生むかは女性自身が決めることだという人権の視点

から、批判の声が出ています。女性が暮らし続けたい高知県となるためには、一人一人の女性が、多様な生き方ができる、年齢の別なく尊重されるというメッセージと施策が必要です。

知事は、昨年3月に策定した「女性活躍推進計画アクションプラン」においては女性が自らの希望や意志で、人生を選択し、個性や能力を最大限発揮できることを目指すべき姿として掲げており、これを踏まえて人口対策においては若者、特に若い女性が高知県で活躍し、高知県で結婚や出産をしたいと選ばれるように施策の充実を図りたいと答えました。

上智大学の目黒依子名誉教授が、「ジェンダー格差と少子化」の関係性を指摘しています。目黒氏は、性別によって固定的な役割を押し付ける社会構造が、女性の「結婚回避」「出産回避」、ひいては少子化現象につながっていると指摘しています。また、「家事や育児の負担感」も問題だと分析しています。県は具体的にどう取り組むのか。

知事は、固定的な性別役割分担意識の解消が欠かせない、男性の育児休業取得が当たり前の高知県を目指し、共働き、共育てを、県民運動として推進する、また、男性の育休取得を推進する企業に入札審査加点を検討したいと答えました。

## おむすび通信 (197)



高知県労連新春旗びらき（高知城ホール1月12日）

12日、高知県労連の2024年新春旗びらきに出席しました。開会に先立ちピアノとフルートのミニコンサート。文化的な企画が入ると心が豊かになります。懇親会の途中で参加団体ごとに紹介がありました。

13日、高知市で党支部との新年会に出席。14日、南国市内で党支部との行動。15日、静岡県熱海市で開催の第29回日本共産党大会をネット視聴。最終日の18日に田村智子さんが、志位さんに代わって、女性では初の新委員長に選出されました。